

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4170500252
法人名	有限会社 牧瀬工業
事業所名	グループホーム こころ
所在地	伊万里市二里町中里甲97番地 (電 話) 0955-20-4556

評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀市八戸溝1丁目1224-2		
訪問調査日	平成 19年7月10日	評価確定日	平成 19年8月15日

【情報提供票より】(平成 19年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 9月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	1人, 非常勤 10人, 常勤換算 6人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋瓦葺	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	5,400 円	
敷 金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	250 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		900 円	

(4) 利用者の概要(6月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名	
要介護1	4 名	要介護2	7 名			
要介護3	6 名	要介護4	1 名			
要介護5	名		要支援2	名		
年齢	平均	83.2 歳	最低	69 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 堀田病院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

伊万里市内から5分程度の静かな田園地域の中に位置したホームであった。ホームは、木づくりで和風の空間を多く作られており、静かでおちつきのある環境であり、又、平屋建ての2ユニットの作りは、プライバシーを十分配慮されていると同時に、ユニット同士の入居者が自由に交流できる環境であった。「入居者がごく普通に自分の家で過ごしているような安心感と、利用者と利用者の家族の人生の過程を尊重し、人の尊厳を大切にする」という運営理念が実践されていた。入居者の笑顔とスタッフの笑顔、そして明るい雰囲気家庭的でなごやかな生活をつくりだしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	評価を受けた内容は、職員会議・勉強会等の場において全職員に連絡し、各自にレポートの提出をってもらうなど、職員全員で意見を出し合いながら改善に努められている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価を受けた内容は、職員会議・勉強会等の場において全職員に連絡し、各自にレポートの提出をってもらうなど、職員全員で意見を出し合いながら改善に努められている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	できるだけ多くの家族や関係者等に参加してもらうため、夜間や日曜日に運営推進会議を実施し、ホームの現状報告や家族・地域からの要望を聞き、職員全体で話し合いサービスの向上に取り組んでおられた。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホームの様子等は定期的な便りで報告を行い、個人的な状況については、面会の際に近況報告などを実施されていた。又、入居者の担当職員は、毎月家族へ手紙を書いたり写真を同封することを実行されており、家族との関係づくりにも力を入れておられた。面会の時に話を聞いたり、アンケート調査や意見箱の設置、運営推進会議などで意見や要望を聞きながら、より良い運営がなされていた。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	毎年のもちつきには、地域の方を招待し地域交流に努められていた。又、「9月に計画している夏祭りや敬老会等地域住民の方に積極的に広報し、参加を呼びかけていきたい」と地域交流の方法についても検討されていた。今後は、ホームの行事等を地域住民の方に積極的に広報し参加を呼びかけていく等、工夫されることを期待する。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	社訓「善の循環」を基に、助け合い(援助)の心を持ち日々業務が行われ、職員の良いところ・入居者の良いところを探しながらサービス向上に努められていた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の朝礼や職員会議・勉強会等において、必ず理念に立ち返り考えていくことを促し、理念の再認識を実践されていた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎年のもちつきには、地域の方を招待し地域交流に努められている。又、「10月に計画している夏祭りや敬老会等地域の住民の方に積極的に広報し、参加を呼びかけていきたい」と今後の地域交流の方法についても検討されていた。	○	今後はホームの行事等を地域の住民の方に積極的に広報し、参加を呼びかけていく等、今後の地域交流の方法について工夫していかれることに期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を受けた内容は、職員会議・勉強会等の場において全職員に連絡し、各自にレポートの提出をってもらうなど、職員全員で意見を出し合いながら改善に努められていた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	できるだけ多くの家族や関係者等に参加してもらうため、夜間や日曜日に運営推進会議を実施し、ホームの現状報告や家族・地域からの要望を聞き、職員全体で話し合いサービスの向上に取り組まれていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	各関係機関等に施設長が積極的に出向き、相談や連絡調整、報告等が行われていた。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームの様子等は定期的な便りで報告され、個人的な状況については、面会の際に近況報告などを実施されていた。又、入居者の担当職員は、毎月家族へ手紙を書いたり写真を同封する等されており、家族との関係づくりにも力を入れられていた。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の時に話を聞いたり、アンケート調査や意見箱の設置、運営推進会議などで意見や要望を聞きながら、より良い運営につなげられていた。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者の心身の状態や性格を考慮し、適した職員の配置を行うことで、より良いサービス提供に努められていた。又、担当制をもうけて個別的な対応にも配慮されていた。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修については、職員の経験年数や能力等に応じて参加させておられた。又、内部研修については、採用時研修を含め、定期的な勉強会を通じ職員のスキルアップに努められていた。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者同士での勉強会の開催は行われていないが、情報の共有等で、互いに質の向上に努めておられた。	○	この地区では、連絡協議会等はなく、地域の同業者との定期的な交流がないため、自ら行動をおこし、他の同業者とのネットワークづくりに取り組まれることに期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談から入所までの期間は家族によって異なる為、急を要する場合や、待機してからの入所の場合があり、その中で出来る限りの対応が行われていた。	○	今後は、入居待機者への体験サービスや訪問等を実施したり、同じ敷地内のデイサービス等を利用してもらいながら、職員との馴染みの関係ができるように工夫し、入居前の関係づくりが行われることを期待する。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、「すべての生活場面において、入居者から学ぶことが多い」と話されており、入居者と職員は家族のようにお互いのことを大事にし、支えあう関係づくりに取り組まれていた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の会話の中から希望や意向の把握に努め、各個人に合った、その状況に合った本人本位のサービス提供に努められていた。(入居者が、今してほしいことを今実施することを基本としたサービスの提供。)		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者のできること・できないこと等を詳しくアセスメントして、より良いケアができるよう職員全員で話し合い、ケアマネジャーが中心となり介護計画を作成し、実践されていた。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施期間に応じてのサービス評価を行い、特に状態の変化等のため見直しが必要な場合は、迅速に対応するように取り組まれていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や理美容など、入居者の希望に応じた外出支援が実施されていた。	○	併設のデイサービス・居宅介護支援事業所の開始とともに、さらに多機能性を活かしたサービスが提供されることを期待する。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者のかかりつけの病院への受診支援を行い、主治医との連絡調整も密に実施されていた。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「現在はまだ実践していないが、入居者の家族からは、終末までのケアを希望される方がおられるため、今後、取り組みを行いたい」と話されていた。	○	現在終末期の方針を作成中であり、なるべく早い段階に全員で共有できるように実施されていくことを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	勉強会や職員会議等で職員との話し合いを常時行い、利用者一人ひとりを尊重した介護を実践されていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務中心ではなく、利用者中心を心がけ、利用者の生活リズムを崩さないよう配慮し、親身になって話を聞くように取り組まれていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食欲がわくように、見た目や盛り付け、硬さや形に注意し利用者と一緒に食事の献立を考えたり、調理をしたり片付けまで楽しみながらできるよう支援が行われていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	オープン当初から、入浴は毎日実施され、入居者の入りたい時間帯に合わせ、ゆっくり一日の疲れを癒してもらうように支援が行われていた。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の能力を尊重し、レース編み・パッチワーク・手芸等、入居者が好きなこと、興味のあることを理解し、望まれることをできる限り支援する取り組みが行われていた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物やドライブ等入居者の希望やその時の状況に合わせた個別の支援が実践されていた。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室、玄関ともに鍵はかけず、外出願望のある方などの行動を職員が把握し、外出の際は、職員が同行し自由に外出できるような支援が実践されていた。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の方や地元消防団の方と定期的に避難訓練などを実施し、災害時の対応について常に検討がなされていた。又、通報訓練も実行されていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全職員で食事の摂取量、水分量ともにチェックし、状態の把握に努められていた。また、栄養状態・健康管理等については、看護師が管理し主治医との連携も行われていた。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	談話室には冬になると炬燵を置き、浴槽は家庭用浴槽を使用し生活感を出されていた。また、花を生けたり、季節に応じての飾りつけ等もされており、ホーム内は木の香りが漂う環境で居心地よく過ごせる空間であった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇や位牌も持ち込むことができ、職員の援助により線香等も使用されていた。又、ダンスや冷蔵庫・テーブル・食器も持ち込まれ、入居者の安心感や居心地のよさに配慮した空間をつくりだされていた。		